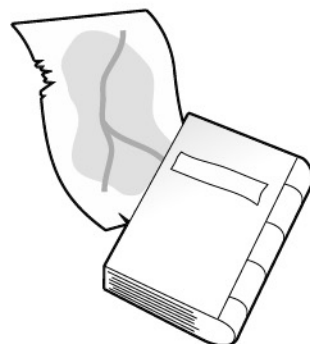


Q 藤河議員
古文書などの文化財保管・展示施設を求む。

A 今後、何らかの方法を研究していく。
(藤森生涯学習課長)

Q 最近、平谷地区で古い文書や絵地図等が多数見つかったようである。町内には、古い文書等を個人で所有している人が多くいる。個人で所有している文書はいつしか紛失してしまうことも考えられるため、こうした文書や古い貴重な資料を募集し、保管公開できる場が欲しいものである。町にこうした施設があれば、手持ちの文書を提供しても良いという人もいる。図書館建設を機に、こうした施設を考えるべきではないか。



A 熊野町内では多くの方が歴史的・文化的な資料を所蔵されていると思われる。こういった資料を保管や収集する町の施設は「郷土館」があるが検討課題も多い。今後建設される図書館内には資料保管機能はないが、学術的に重要な資料が散逸してしまうことを防ぐためにも、古文書等を電子化し、管内での閲覧あるいはインターネット上での公開サービスを行えるなど、何らかの手段を研究していきたい。

Q 大瀬戸議員
通学区域弾力化への町の姿勢を問う。

A 今後も関係各位に理解を深めていただき、推進していきたい。
(西原教育部長)

- Q1** 3月議会で、関係者への説明と配慮を求めたが、年度変わりに際してどのような説明、配慮を行ったか。
- A1** 新入生の入学者数の格差の現状と、それについての説明は両校長および町内の学校長に行い理解を得ている。また、生徒数の増減に伴う教員の配置についても対応している。
- Q2** 教育長は新聞記事に対して「両校とも同じような努力をしている」とコメントした。ならば、現実との矛盾の明確な説明を求める。
- A2** 新聞記事については意図したところではなく、誤解を招くような記事になっていた。新入生の入学者数の格差は、クラブや友人関係での選択理由であって、両校の魅力の良し悪しや生徒の獲得競争の結果ではない。
- Q3** この問題に関して、教育長の信念が感じられないが、この際弾力化に関する信念を率直に発言願う。
- A3** 児童生徒が自ら選んで行きたい学校へ行くことが、結果的に教育全体を活性化し、向上していくと考えている。
- Q4** 来年度も同様の状況だが、その先に中学の統合を視野に入れているか。これを踏まえ、弾力化の今後と子供達の将来のビジョンを聞きたい。
- A4** 来年度はどのような状況になるかは未知であるが、今後とも保護者に対して説明会を開催し、弾力化の理解を深めていただく。